

新調だんじり 泥幕



原案:津戸直 下絵:梶内貴史

新調だんじり 泥幕



原案:津戸直 下絵:梶内貴史 参考:奉納絵馬

こしきいわのたたり

霊岩甌岩を大坂城築城（1583年頃）のために切り出そうと豊臣秀吉が石工達に命じて割らせていたところ、今にも割れんとする岩の間より鶏鳴し真白な煙がたちのぼり、その靈氣に石工達は岩から転げ落ち倒れ臥した。奉行達はほうほうのていで逃げ帰り、如何にしても甌岩は、運び出せなかったと言いつたされている。

大坂城築城の残石

御影石の前面に刻印がある。これは池田備中守長幸が使用した刻印で、備中守は大坂城修築工役として元和6年(1620)から寛永5年(1628)の間、天守台を始め、本丸、桜門西詰より姫門西手へ、二の丸大手北詰・玉造門より西手へ、玉造口西詰より大手南詰等へ石垣を築いた大名である。その石垣に多数の備中守長幸の家紋がある。

採石地不明といわれていたところ、境内より発見された数個の刻印石により、越木岩神社及び付近一帯が採石地であったことが判明した。

池田長幸は、元和3年(1617)鳥取城より入封し元和9年(1623)まで備中松山城(岡山県高梁市)6万5千石の城主を勤めた。

おかげ踊り（絵馬には楽車が描かれている）

文政13年(1830年)3月、阿波からはじまった「お蔭参り」の一大伊勢郡参りがようやく下火になった後をうけ6月頃より「お陰踊り」が河内の国におこり、大和から摂津・山城まで狂乱乱舞された。

この踊りがどんな様子であったかという資料は少ないが、越木岩神社に2面、大和に3面、山城に1面と現存している。

越木岩神社に現存する2面は、越木岩上新田と下新田から奉納されたものである。

天保2年(1831年)6月に奉納された上新田の絵馬は、縦80cm横180cmの板絵で、甌岩(ご神体)の前に立てめぐらされた提灯、大御幣を捧げ持つ猿田彦(天狗)にふんした男、その後ろに神官が供を従え、数十人の男女が揃いの衣装で笠をかぶり踊りながら繰り込んで行く。また、だんじり(楽車・屋台)に小鼓や三味線などおはやしを乗せて引いている。おそらく越木岩にだんじりらしきものが登場した最初であろうと考えられる。

下新田の絵馬には、屈強な相撲力士も登場します。これらの絵馬をみるかぎり、越木岩の村がまとまって整然と氏神様に、大踊りを繰り広げながら向かっていることがよくわかります。